

令和6年度自己評価結果公表シート

R7年3月

幼保連携型認定こども園

金城幼稚園・保育園

1、評価項目の達成および取組状況

○前年度（令和5年度）の取り組み

幼保連携型認定こども園 金城幼稚園・保育園

令和5年度 学校評価の取り組み報告 ～ダイジェスト版～

【今年度の取り組み状況】

第1回目実施

① 直接保育者としての資質や能力・意識・態度

「締め切りのある仕事や提出物の締切日、会議や打ち合わせの時間をきちんと守っている」「当番や役割による仕事を理解し確実にやっている」という項目の評価が低かったためグループディスカッションで話し合った。

○グループディスカッションを通して

⇒①クラス②行事③給食④その他との部分並行し並べられないか具体例を出し、改善案を考えた。

内容と原因を話し合った結果、

・複業の無断をやらなければならない時の優先順位をうまくつけられない

・1つひとつの業務（計画書作成など）に時間がかかる

・突発的な仕事が入りまとまった時間が作れない 等があげられた。

改善案

・書類の様式変更

・突発的な仕事が入った時の対応

② 直接保育者への対応・支援体制

対応上のマナー、良質な項目について、評価は悪くないが、上手くできていない事を具体例にあげている職員が多かった。

○グループディスカッションを通して

例題をもとに報告の仕方・報告時のポイントSWHの重要性を考えた。

改善案

・正しい日本語を意識して使う

・敬語を増やす

第2回目実施

V地域の自然や社会とのかかわり

○12月26日幼保小連携研修会「幼保小の架け橋プログラム」開催

○グループディスカッションを通して

園で行っていることがどのように小学校に繋がっているかを確認した。

改善案

・12月26日(火)に園で行った幼保小連携についての勉強会後、市の子育て支援課、学校教育課等市の職員間でも勉強会を実施することになった。

・今回のグループディスカッションを通して、日々行っている保育の中で小学校へ繋がっていることが多くあることに気が付いた。この気持ちを保育の中で大切にし、担任・副任からその都度子どもたちへ「小学校ではこんなことも学べるよ」などの声掛けをし、興味関心を持たせることを意識していく。

Ⅷ.地域における子育て支援

自園の子育て支援事業の理解について

園の職員一児童館で行われている子育て支援の内容をあまり理解していない

子育て支援担当一情報を知ってもらうためにはどのような情報発信の仕方が良いのか ということが課題に上がった。

○グループディスカッションを通して

・初めての場所（児童館）に足を運ぶことは勇気がいる。はじめの一步を踏み出しやすい環境、対策を考えなければならない。

↓

子育て支援講座・児童館に来館するはじめの一步を踏み出しやすくするための対策を考えた。

改善案

①児童館だより「是非、お友達と一緒に」など一言追加する ②新規の場所へも児童館だより配布の依頼をする

③SNSの活用 ④お友達紹介特典を作る

子育て支援事業について情報発信の具体的なアイデアをみんなで話し合い、実行に向けての分組までを決めることができた。課題だけに目を向けるのではなく、現在の課題内容や金額などについての良さを認め合う事もでき、職員の自信や今後のモチベーションにも繋がる機会となった。

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

㉼

㉽

㉾

㉿

㊰

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

㉼

㉽

㉾

㉿

㊰

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

㉼

㉽

㉾

㉿

㊰

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

㉼

㉽

㉾

㉿

㊰

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

㉼

㉽

㉾

㉿

㊰

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

㉼

㉽

㉾

㉿

㊰

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

㉼

㉽

㉾

㉿

㊰

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

㉼

㉽

㉾

㉿

㊰

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

㉿

㉾

㉽

㉼

㉻

㉺

㉻

音楽・絵画・言葉使いにつて

○外部講師の指導等を取り入れ、年齢ごとの成長の目標を職員間で共有していく

園生活の中で、こどもたちへの関わり方や言葉掛けが「不適切な保育」に該当していないかを意識し、自他ともに確認していく。

安全のために禁止語が必要な場面なのか、声掛けや関わりで促せる場面なのかを考え、言い換えられる禁止語は言い換える。必要な場面で禁止語等を使った時にはこどもたちへのフォローや保護者への分かりやすい状況説明を行っていく

【1回目の自己点検・自己評価を通して】

<7月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

重点項目①「VI保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」

1、研修・研究への意欲態度

①「研修会や研究会には自己課題を持って参加し、事前にその内容を確認したり自分なりの考えをまとめている」の項目について、全体的な評価は悪くなかったものの「研修会への自己課題は内容を知ろうとはしているが、自分なりの考えまでまとめていない」「研修報告書の事前報告を忘れてしまうことがある」などの具体例を挙げて評価を低くしている職員がいた。

②職員が学びたい・必要と感じる研修とは？(A・Bグループで同様に出了意見を下記の4つのカテゴリーに分けた)→様々な研修の在り方に気づくことが出来た

【園内研修(講師必要あり)】例:個別支援について、健康、安全、乳児保育

【園内研修(自分たちで企画)】例:保護者対応、異年齢保育の連携、ICT、幼保小連携

【園外研修】例:保育向上(実技)、園運営、職員間の連携、製作

【その他】例:園にとって必要な研修を精査する、職員が学びたい研修をリスト化する

③研修参加後、学びを有効的に実践するために出来ることは？

[Aグループ]:出了意見を【情報共有の方法】【評価の方法】【報告書の書き方の工夫】の3つのカテゴリーに分けた。特に評価の方法で「今回の講師を園に呼びたいか？」という設問を報告書に入れることで、①の自分たちで企画する研修会の参加に繋がる。

[Bグループ]:出了意見を【職員への共有方法】【報告書】の2つのカテゴリーに分けた。朝礼を利用して端的に学びを伝えたり(言葉)、アプリの配信を使用して周知したり(ICT)、報告書のファイリングを分野別に分けるなど共有方法に様々な工夫が出来る。

<令和6年度中に取り組む事>

報告書の様式を変更し、どの分野の研修を受けたのかが分かるようにする。また、朝礼時に研修で学んだポイントを端的に伝える。

<令和7年度に向けて準備すること>

2歳児クラスから3歳児クラスへの進級支援に伴う園としての目標や指針を明確にする(書式作り)、研修報告書の閲覧方法をアプリで配信し、職員がいつでも見られるようにする、報告書を分野別にファイルする事で後からアクセスしやすくする、職員が自ら学びたいと思う分野の研修の希望を取る(書式づくり)

【2回目の自己点検・自己評価を通して】

<12月の自己点検・自己評価の集計・分析結果>

【Aグループ】

夏の自己点検自己評価からの改善策の進行状況を分析した結果、「VI保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」の改善策として、各職員が研修を受講した内容を職員へ情報共有する方法を考えた。その結果、

①朝礼を利用して端的に学びを伝える(すでに実施)、②アプリの配信を使用して周知する(R7 年度～実施)、③報告書のファイリングを分野別に分ける(R7 年度～実施)、④研修報告書の様式を変更し、何の分野の研修を受けたのかが分かるようにする(R7 年度～実施)という方法が決まった。

・上記の改善策から「研修内容を誰に、どんな内容を共有すべきか」「どのように次に繋げるべきか」を判断する基準を作る必要がある

グループディスカッションの内容

1、職員が外部で受講してきた研修内容で、①自分が職員に伝えたいと思った研修 ②他職員が受講した研修でより詳しく知りたいと思った研修について意見を出し合う

2、出し合った意見を分類して、研修内容を伝える範囲を「クラス内」「全体」「企画して園内研修」の 3 つの基準を作り判断できるようにする

～出し合った意見を分類～ ＊分類したものが、様々に繋がりが合っていることに気づいた

他園からの学び(環境設定・情報共有等)・実技(製作・手遊び等)・計画や振り返り・職員連携・記録・児童発達支援・メディア・保護者支援・法定研修(園長研修・中堅研修・処遇改善・初任者研修等)、資質向上(キャリアパス…園独自のキャリアアップ)

・意見を出し合い分類した結果、研修内容は多岐に渡り一概に判断する基準を作るとことは難しいと気づいた → 園長・副園長・教頭・主幹で判断することに決めた

・意見を出し合い分類したもののなかで、園として必要な研修について考え優先順位をつけた。まず第一に園の現状に必要なとされる「職員連携」について、園内研修する必要があると考え、R7 年度に実施できるよう準備を進めて行く

改善策

令和7年度 園内研修「職員連携について」

未満児:園児数が増えることにより、携わる職員が増え情報共有する機会が多い。何をどのように伝え合うか、情報共有の優先順位を作る

以上児:園児数が減っている中で、担任・副担任の職員配置が必要かどうかを考える。園児何人までなら 1 人で担任すべき人数か、1 人担任+補助でクラス運営する方法について具体的方策を考える

⇒この園内研修をすることで、次に記録や保育計画・振り返りについて順を追って園内研修で精査することで業務の効率化を図り、子ども達のよりよい成長発達へと繋げていくことができる

【B グループ】

夏の自己点検・自己評価では、改善策として【園内研修(自分たちで企画)】例:保護者対応、異年齢保育の連携、ICT、幼保小連携があげられた。その中で「2 歳児から 3 歳児クラスの進級に向けて保育者が配慮すると良いこと」についてアンケートをとった。しかし、2 歳児は月齢差もあり、途中入園もいるため、2 歳児が進級に向けて保育室を移動する 1～3 月に絞って話し合うこととした

グループディスカッションの内容

① 2 歳児から 3 歳児クラスの進級に向けて 1 月から 3 月に職員が配慮すると良いと思う事について意見を出し合う

② 出し合った意見を分類する

今回は「生活習慣」(言葉・排泄・着脱・姿勢・食事・身支度)「家庭の状況」(保護者・親子関係・家族構成)「環境」(保育室・トイレ・給食)「その他」(遊び・友達関係・特性・既往歴・発達面)に分けた

③ ②の中で 2 歳児から 3 歳児への引き継ぎ時に優先的に伝えることはなにか、どのようなポイントを知りたいかを意見を出しあった

「生活習慣」…排泄項目はパンツなのかオムツなのか○×で知りたい、特記事項あり(例:排便のみオムツ)着脱項目は自分で出来ないことのみが知りたい

「家庭状況」…家庭状況調査票以外の情報

「既往歴・アレルギー情報」…特記事項として必要な情報のみ知りたい(例:鶏卵アレルギー有で園では完全除去/持病あり行動制限なし等)

「友達関係」…特記事項として必要な情報のみ知りたい(例:A 君と B 君は一緒になるとトラブルになりやすい等)

「発達面」…特記事項として、市の検診での共有事項・集団の中で支援につなげる点の有無(言葉・身体・知的)

「特性への配慮事項」…特記事項にて必要な情報のみ知りたい

※話し合いを通して共有したい情報が何であるのか、優先されるものは何であるのか、大まかに知りたいこと・細かく知りたいことは何か、を共有することが出来た。

改善策

①「2 歳児から 3 歳児クラスの進級に向けて 1 月から 3 月に職員が配慮すると良いと思う事」

を表にし、2 歳児の月案週案に挟むようにし、保育の中で意識して行っていく

→3 月中に作成

②今回のグループディスカッションで話し合った③について引き継ぎの資料作成時に使えるようなテンプレートを作成する

→3月中に作成→令和6年度から7年度の引き継ぎの際に使用する

→改善点があれば修正し、R8年度の引き継ぎ時に使用

【学校関係者評価委員会メンバー】（敬称略）

アドバイザー：東京福祉大学准教授 鈴木美子

笛木 隆	南魚沼市教育委員会 子ども若者支援センター指導主事	常山 利江	塩沢小学校校長
上村 真史	当園 PTA 会長	高橋 司	当園 PTA 副会長
森 輝久	当園 PTA 副会長		
事務局	角谷金城幼稚園長	担当：瀬下副園長	担当：貝瀬教頭
			木村主幹保育教諭

3、来年度へ向けて

「VI保育者の専門性に関する研修・研究への意欲・態度」

①令和7年度 園内研修「職員連携について」

未満児：園児数が増えることにより、携わる職員が増え情報共有する機会が多い。何をどのように伝え合うか、情報共有の優先順位を作る

以上児：園児数が減っている中で、担任・副担任の職員配置が必要かどうかを考える。園児何人までなら1人で担任すべき人数か、1人担任+補助でクラス運営する方法について具体的方策を考える

⇒この園内研修をすることで、次に記録や保育計画・振り返りについて順を追って園内研修で精査することで業務の効率化を図り、子ども達のよりよい成長発達へと繋げていくことができる重点項目①V地域の自然や社会とのかかわり

②「2歳児から3歳児クラスの進級に向けて1月から3月に職員が配慮すると良いと思う事」

を表にし、2歳児の月案週案に挟むようにし、保育の中で意識して行っていく

③今回のグループディスカッションで話し合った②について引き継ぎの資料作成時に使えるようなテンプレートを作成する

4、学校関係者の評価

- ・子ども一人ひとりの個性を見極めながら、保育者が関わっていることがよく伝わってきた
- ・年長クラス とてもよく話が聞けていた。学習に繋がる
- ・製作活動では時間差ができるが、活動終わった子への確なタイミングで次の課題を示しており、こどもたちも集中を保ったままクラス活動が行われていた
- ・年中児クラス 自分たちが1年間でできるようになったことを言葉で伝えるだけでなく視覚化しておりこどもたちにも伝わりやすかった
- ・保育の中で天気や曜日など保育者が自然と英語を取り入れていた。英語教室で習っていることを普段の保育で取り入れており、素晴らしいと感じた
- ・同じ園の中だが2歳から3歳に向けての保育者の配慮がこんなに細かくされている 素晴らしい。
- ・年中クラス 先生方へのプレゼントの花づくりを行っていた。何のために作るのかを一人ひとりが理解し、感謝の気持ちを持って作れていた
- ・以上児と未満児と違いはあるが、保育者一人ひとりが子ども一人ひとりを丁寧に看取って関わる基本ができていると感じた

5、苦情解決結果

令和6年度は苦情がありませんでした。（3月17日現在）